

20251201 大学ICT推進協議会 年次大会 教育技術開発部会

企画セッション：地域特性と制約を乗り越えるEdTech実践：北海道の事例に学ぶ

教職課程における 教育実践力向上CBTの活用について

—スパイラル型カリキュラムにおける理論と実践の往還を支える仕組みとして—

北海道教育大学 特別補佐（教育担当）

旭川校 准教授 山中 謙 司

教職課程における 教育実践力向上CBTの活用について



1. 教育実践力向上CBTについて

- 背景とねらい
- 実践・省察科目群での位置付け
- 問題群，内容構成

2. 「Testing」としての活用

- 活用プロセス

3. 「Training」としての活用

- 「e-learning」としての活用
- 学校教育の実践と省察Ⅲでの活用

4. 成果

5. 現状と今後の展開

実践的な指導力をそなえた教員を養成する 特色ある取り組み

主免教育実習



1.教育実践力向上CBTについて

背景とねらい

実践的省察を通じて学び続ける教師へ

経験主義を超えた普遍的・基本的指導方法の習得

学校教育の実践と省察（発展）

各自で設定した課題に基づき、主として学校現場を対象に理論的・分析的な省察を通して、実践に必要な知見の更なる習得及び能力の一層の伸長を図る

学校教育の実践と省察 III

「授業づくり」
を中心とした
実践と
批判的省察

- ▼教師と子どものかかわり合い
- ▼協働的な学び（他者と振り返る）
- ▼子どもと教師の関係性について新たな展開を模索
- ▼本質的な諸相への気付きと実践の選択肢の拡大
- ▼自己の強みやよさの見つめ直し
- ▼普遍的な実践知の獲得
- ▼将来自分がなりたい教師像の確定

教師としての
自分の強みや弱点
への気付きを生み、
今後の自己成長
への契機とする

学校教育の実践と省察 II

「子どもとのかかわり」
を中心とした
実践と
実践的省察

- ▼子どもとのかかわり
授業づくりの土台にある子ども理解、子どもに育てたい力、授業観、教材観、教師の行為や指示の意味
- ▼アイデンティティの見つめ直し
自己の強み・能力によってできることをどう発展させていくか

自己省察に至り、
無自覚であった
行為が
価値ある実践知で
あることに
気付く

学校教育の実践と省察 I

「観察」
を中心とした
実践と
技術的省察

- ▼教師の役割、教職のやりがい
教師の行為や指示、子どもの成長や人間形成などの意味
- ▼授業
教材、指導方法、指示・発問内容
- ▼アイデンティティの見つめ直し
自己の強み・能力によってできること

観察した
教師の行為が
価値ある実践知で
あることに
気付く

教育実習
等

理論科目

実践・省察科目群

「スパイラル型カリキュラム」に組み込んだ教育実践力向上CBT

教師になるために学ぶ意欲と自信の高まり



教職に関する基本的な法令や
指導方法等の知識を確かなものとする

「個に応じた」「必要感」のある「最低限」の学びの保障

教育実践力向上

Computer Based Testing & Training

教師としての資質や指導力を培うため、学校現場で
起こりうる実践場面を題材とした問題に段階的に取り組む

教職の難しさ実感・教員志望の低下

教師と子供との相互作用
による営みは、不確実・不
確定・複雑で動的であり、
臨機応変に対応する必要
がある

「一律一様」の理論的な
学びだけでは、実習等で
一人一人が把握した課
題意識を消化する場が
ない



教育実習等

理論科目

1.教育実践力向上CBTについて

実践・省察科目群での位置付け、問題群、内容構成

実践・省察科目群での位置付け

＜本質的な諸相を考えながら、より適切な選択に基づく実践へ＞

個別最適な
学びと
協働的な
学びの
一体的な
充実

Training4（協働）

教育実習の省察
協働的な学びによる
本質的な諸相への気づきと
実践の選択肢の拡大
アイデンティティの
見つめ直し

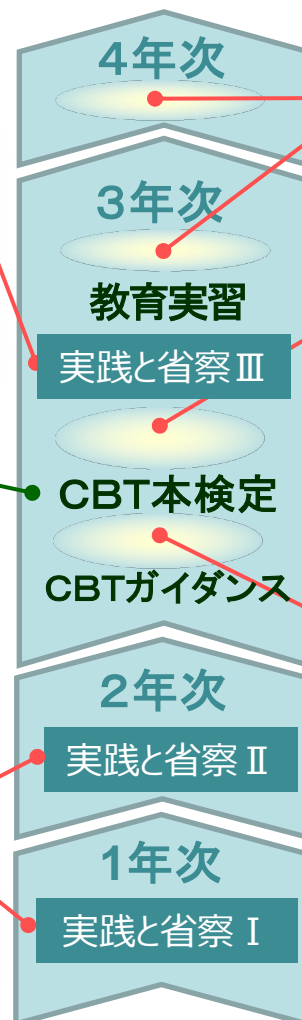
Testing（教育実習の履修要件）

コンピュータ上で各項目内で
ランダムに出題される50問のうち、
7割の正解で合格

- 他の教師の
- 解答を選択し、
- 批判的な視点のみで参照する。
 - 自分ならどうするかを意識する。
 - メモを取るなど記録化する。
 - 学級の実態もあわせて参照する。
 - 採業者のよさや工夫点を見つける。

Training1（個別）

学校現場における実践の省察
課題を把握し、問題集で確認



Training5（個別）

フィールド研究を通して
新たな実践の試行

Training3（個別）

教育実習までに検定で
明らかになった苦手な
内容について学び直し
「e-learning」の活用

Training2（個別）

ガイダンスを契機として
これまでの学びを
問題集を基にチェック
「e-learning」の活用



問題群

1. 教師論
2. 学級経営
3. 学習指導
4. 特別支援教育
5. 生徒指導
6. 危機管理
7. 学習指導要領
教育課程
8. 法規

問題作成者は、校長、教頭、
教育委員会指導主事、
国立教育政策研究所
学力調査官経験者である
学校臨床教授。

基礎編～教育実習前に取り組む問題。検定
に合格することが、教育実習の履修
要件。210問。

応用編～教育実習後に取り組む問題。教育
実習からの学びをさらに深め、教員
採用試験等の対策にも。450問。

発展編～より実践的な問題。採用前、あるい
は初任段階で取り組むことで、現場
での実践力向上を図る。380問。

2.「Testing」としての活用

活用プロセス

入学時に「教育実践力向上CBT問題集」（冊子版）の配付

ガイダンス

- 2年次の3月*¹に事前説明会を実施
 - 趣旨や学習の方法，不合格者への対応等を説明
- * 1旭川校の場合

自学自習

- 本実施までに問題集で学習
（単に正誤だけではなく，なぜそのような対応が求められるのか解説を読んで理解する）
- 「e-learning」の活用

本検定

- 教育実習前の指定された日時に自宅等での受験
- 結果の確認（得意・不得意の内容を把握）
- 50問中35問の正解に達しない場合は再受験
- 再受験でも基準を達成できない場合は，学校臨床教授の指導による補講

自学自習

- 弱点補強のための復習

教育実習の参加

No.1

授業参観の心構え

他の教師の授業を参観する際の心構えとして、ふさわしくないものを1つ選びなさい。

解答を選択してください

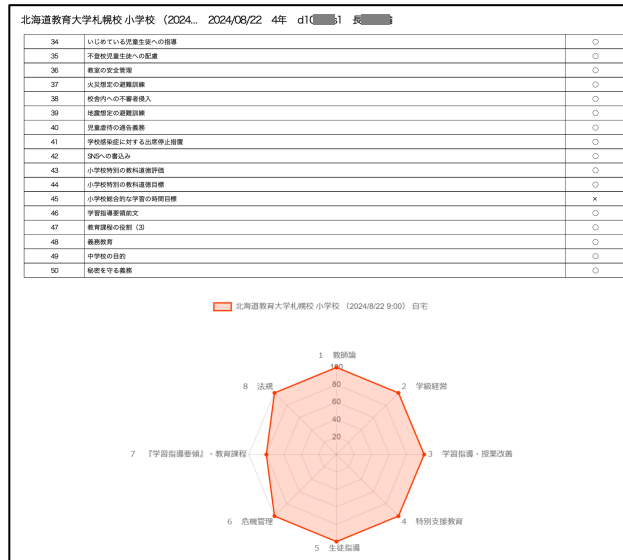
- ☐ 批判的な視点のみで参観する。
- ☐ 自分ならどうするかを意識を持って参観する。
- ☐ メモを取るなど記録化する。
- ☐ 学級の実態もあわせて参観する。
- ☐ 授業者のよさや工夫点を見つけるように参観する。

← 前へ

1/19

次へ →

検定時の画面



2.「Testing」としての活用

「教育実践力向上CBT」の「Testing」のフロー

<1st step> 60分

- ・ 共通様式の「教育実習前CBT課題1」の解答に取り組む。
- ・ 自己採点をする。
- ・ 間違えた設問の正答となる理由を記述する。
- ・ 正答となる理由等について、学校臨床教授より指導を受ける。

<2nd step> 20分

- ・ 「課題2(記述式 2問)」の解答に取り組む。
- ・ 学校臨床教授による採点、指導を受ける。

<3rd step> 10分

- ・ 「教育実習前CBT課題1」「課題2(記述式 2問)」を提出の上、その場で合否判定を受ける。

教育実習前CBT 課題（解答例）

北海道教育大学

※解答例については、課題1、課題2のそれぞれの中で、解答としてふれてほしい内容のポイント例を示しており、後段には問題集の中で関連のある問題番号を示しております。あくまでも例ですので、各キャンパスや受験者の実情も踏まえ、判断していただくものになるかと考えます。今後、学生の解答例から再検討し、更に改善を図りたいと思います。

【課題1】

教育実習に臨むに当たり、どのような教師でありたいと思いますか。また、そのような教師になるために、具体的にどのようなことを心がけていきますか。問題集の「教師論」「学級経営」「児童生徒理解」「生徒指導」等の内容を踏まえて答えなさい。

【目指す教師の記載内容のポイント例】

- ①コミュニケーションを図り、子ども理解に努め、どの子どもからも信頼される教師
- ②明るく前向きで、常に謙虚な姿勢で学び続ける教師
- ③服装や言葉遣いなど、節度やけじめのある教師
- ④「いいものはいい！悪いものは悪い！」と冷静かつ毅然とした態度でいられる教師
- ⑤子どものよさや頑張りを認め、伸ばすことができる教師

【具体的な心がけのポイント例】

- ⑥子どもと話すときは、いつも落ち着いて共感的に傾聴し、温かい言葉がけを心がける。
- ⑦休み時間や当番活動等、いつも子どもとともに活動するようにする。
- ⑧問題行動等の指導を行う際は、本人から丁寧に話を聞き、納得を得るようにする。
- ⑨生徒指導や危機管理に関することは、一人で抱え込まず、周りの先生に相談する。
- ⑩柔軟かつ謙虚に子どもや先生方から多くのことを学ぶようにする。

①～No. 48、No. 52、No. 69、No. 78

⑥～No. 48、No. 84

②～No. 2、No. 4、No. 20

⑦～No. 22、No. 52

③～No. 1、No. 2、No. 6

⑧～No. 78、No. 84

④～No. 7、No. 84

⑨～No. 18、No. 83、No. 86、No. 87

⑤～No. 56、No. 57

⑩～No. 4、No. 8、No. 10、No. 11、No. 12

【課題2】

どの子にとっても楽しく、「分かった！」「できた！」と実感できるような授業をつくるために、どのような工夫をしていきますか。問題集の「学習指導」「学習指導要領」「教育課程」等を踏まえて答えなさい。

【どの子にとっても、楽しくわかる授業を創るための工夫】

- ①子どもの主体性や意欲、興味・関心を引き出し、高めていく授業の観点から
→既習経験が生きる。生活とのつながりがある。課題提示の工夫。問題解決的な学習過程等
- ②子ども一人一人を大切に授業、個に応じた授業の観点から
→発言が苦手な子への対応。よさや伸びを認める。個人差に応じた指導等
- ③学び合い、高め合う授業の観点から
→グループ学習の進め方。発言力の強い子どもへの指導。どの子も意見を言いやすい環境作り等
- ④わかりやすく、学力を着実に身に付ける授業の観点から
→目標や育てたい力の明確化。導入・展開・まとめの3ステップ。課題提示の工夫等
- ⑤教師の発問、指示、関わりが明確な授業の観点から
→明確な発問。指示の仕方。間違いへの支援。子どもの発言を生かす関わり等
- ⑥主体的・対話的で深い学びを実現する授業
→授業改善の3つの視点。授業改善の項目。問題解決的な学習過程。グループワーク等

①～No. 27、No. 28

④～No. 27、No. 30、No. 146

②～No. 33、No. 41


⑤～No. 31、No. 32、No. 34、No. 37

③～No. 35、No. 36

⑥～No. 28、No. 29、No. 145

3.「Training」としての活用

「e-learning」としての活用



 国立大学法人
北海道教育大学

国立大学法人 北海道教育大学 > 目的別メニュー

目的別メニュー

在学生の方

修学支援

- 教育支援総合システム (Live Campus U)
-  [感染症による欠席届 \(404.21 KB\)](#)
- [統合認証パスワード変更 \(学内専用\)](#)
- [シラバス検索](#)
- [附属図書館](#)
-  [教育実践力向上CBTシステム \(710.13 KB\)](#)

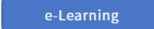
学生支援

- 授業料の納入
授業料の納入方法・納期等についてのご案内です。

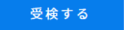
本学ホームページ画面

マイページ

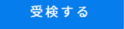
ユーザID: hue_teach4 | 氏名: 【北海道教育大学】設問作成者4



北海道教育大学WG用 (小学校)

受験期間 2021/08/02 16:20 ~ 2022/03/31 00:00 

北海道教育大学WG用 (中学校)

受験期間 2021/08/02 16:15 ~ 2022/03/31 00:00 

北海道教育大学 e-Learn

ユーザID: hue_teach4

A 基礎編

解答数/問題数 0/177
正答数/正答率 0/0.00%

B 応用編

解答数/問題数 2/491
正答数/正答率 2/0.41%

C 発展編

解答数/問題数 0/372
正答数/正答率 0/0.00%

チェック問題

前のページに戻る

3.「Training」としての活用

学校教育の実践と省察Ⅲ（3年次）での活用

学校教育の実践と省察Ⅲ

「授業づくり」を中心とした実践と批判的省察

- ▼教師と子どものかかわり合い
- ▼協働的な学び（他者と振り返る）
- ▼子どもと教師の関係性について新たな展開を模索
- ▼本質的な諸相への気付きと実践の選択肢の拡大
- ▼自己の強みやよさの見つめ直し
- ▼普遍的な実践知の獲得
- ▼将来自分がなりたい教師像の確定

教師としての自分の強みや弱点への気付きを生み、今後の自己成長への契機とする

3年生を対象に、附属学校・拠点校・小規模校での授業をビデオ視聴し、授業者とのオンラインによる交流等を通して、授業実践上の課題や新たに見つけた課題の解決を目指した授業研究や省察活動を行い、学級経営力・授業分析力・授業運営力等、実践に必要な知見の更なる習得及び能力の一層の伸長を図る



学校現場とのオンラインでの交流



配信された実際の授業を視聴



授業者と質疑応答

再現教室やラーニングコモンズを利用した講義時間以外の学生主体の模擬授業づくりで実践



問題の本質を見極め、より適切な選択に基づく実践を可能とする力の育成

教育実践力CBT問題を取り入れた学び

示された選択肢以外の内容を考え、実践上の選択肢を拡大する

個人思考（3分）
できるだけ多くの内容を考え、数を確保する

グループワーク（10分）
話し合いを通して、質の向上を図る

全体発表（10分）
実践上の選択肢を増やす

板書する際の配慮事項として、あまりふさわしくないものを1つ選びなさい。

- ア 一時間の授業の流れがわかるような構成を心掛ける。
- イ 目立つことが重要であるから、色チョークをどんどん多用してカラフルにするよう心掛ける
- ウ 児童生徒の考えを位置づけ、生かすように心掛ける。
- エ 掲示物やICT機器、ホワイトボードなどを効果的に併用するように心掛ける。
- オ 色チョークや文字の大きさ、枠、矢印などの工夫をすることで、分かりやすい板書を心掛ける

いじめとふざけを見極める際の対応として、ふさわしくないものを1つ選びなさい。

- ア 担任だけでなく、管理職、生徒指導部、学年主任などで、事実関係を正確に把握する。
- イ 双方の児童生徒を個別に呼んで、チーム体制を組んで事実関係を聞き取る。
- ウ 担任が「ふざけの範疇」と判断した場合は、しばらく静観することにする。
- エ 被害児童生徒がいじめと受け止めた場合は、いじめと認められることについて、他の児童生徒に認識させる。
- オ 事実関係を正確に把握し、学校の対応方針等を確認するとともに、全教職員で共通理解を図る。

3.「Training」としての活用

学校教育の実践と省察Ⅲ（3年次）での活用

3 学習指導・授業改善（全員参加）

発問に対して一部の児童生徒しか反応しないときの対応として、ふさわしくないものを1つ選びなさい。

- ア. 全員が挙手するまでいつまでも待つ。
- イ. ノートに予想を書かせ、机間指導した際に認めるなどして自信を持たせる。
- ウ. 黒板にネームカードを貼らせて、立場を明確にする。
- エ. 選択肢を示してどれかに挙手させる。
- オ. 隣の子との話し合いを行わせて、自信を持たせてから挙手を促す。

他には…

- 既習の内容を確認する。
- 考えを表出しやすい幅のある問いかけにする。
- 子供の考えと異なる考えを提示する。

その行為の裏にある意図は…

- 誰一人取り残さない学びの実現

子供一人一人の学びを最大限に引き出し、主体的な学びを支援する伴走者としての役割

ふさわしくない対応の選択

根拠の確認

自分の見聞きした経験を超えて多様な方法があることを認識する

選択肢に示されるふさわしい対応の確認

実習時の対応の想起 対応の理由・子供の反応

妥当性の検討（協議）

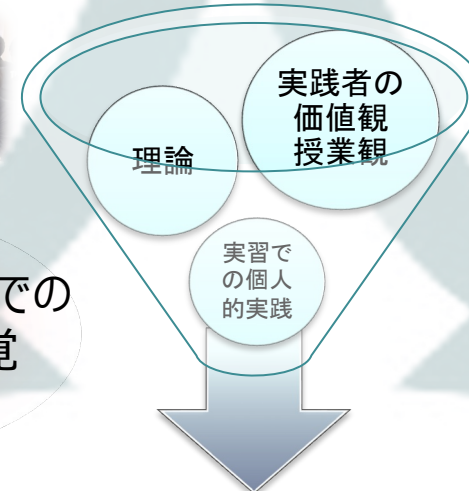
自分ならばどのように具体的に行動するかをイメージする

無意識の対応 → 行為の価値の自覚



教員になる上での課題の自覚

理論科目・教科指導法等、
他の学修への
主体的・能動的な学びへ



本質的な諸相への気づき
普遍的な実践理論化

にする。
エ. こつこつと努力していることなど、本人なりに頑張っている取組の様子を認めるようにする。
★ 学校は、集団での行動が求められる場所なので、どのようなときでも、他の児童生徒と同様の行動をとらせるようにする。・身近な目標から始める。
・机間指導を増やす。・学習方法の選択肢を増やす。
No.3 特別的教育課程
【小学校（中学校）学習指導要領 第1章第4の2
「特別な配慮を必要とする児童（生徒）などへの指導」

対応（行為）の
選択の拡大

フィールド研究を通して
新たな実践の試行へ

自分でアレンジできるか
他の方法はあるか

4.成果

学生による教育実践力向上CBTに対する評価

- 授業の経験が少ないので学校現場イメージがわからず不安でいっぱいでした。ですが、CBT問題を活用することで必要な知識を手に入れることができ繰り返し問題を解いたり解説を読むことで少しずつですが自信に変わっています。CBT問題は教育実習に向けた準備や気持ちに直結するものだったと思いました。
- 法規はCBTがなかったら勉強しなかったと思うので助かった。

- 学習指導や教職論については講義で多く学習してきたが、危機管理についての学習機会が少なかったため、児童生徒の健康についてや災害時の対応についての問題でイメージが高まった。
- 学級経営の問題で言葉遣いに関する指導や生徒の対応に関する問題が出題されており、実際に学校現場で実習をしているときにもどんな対応をするべきかということがより明確になった。
- 学習指導・授業改善の問題で授業中の指導だけでなく、授業を計画する上で何を意識して授業を展開するかを問う問題が出題されており、教科の教授法だけでなく、指導上の注意点をより学ぶことができた。

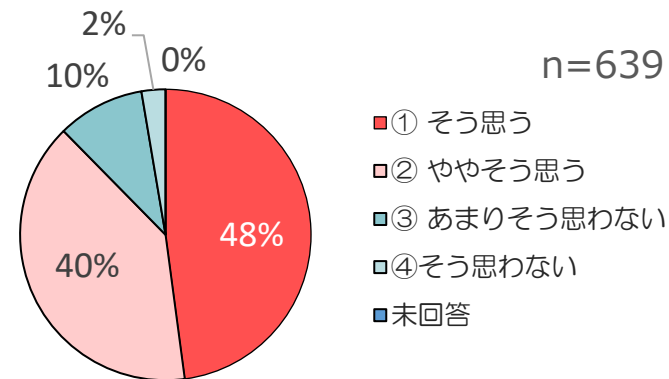
- CBTを通してイメージをもち、教師のあり方や子供との関わり方について考えを深めることができた。実際に子どもたちを目の前にした時に、柔軟に対応する力を身につけたい。
- CBTを通して、生徒との実際のかかわり方や、教員としての心構えについて、改めて学び直す機会となった、CBTで問われていたこととしては「生徒1人1人の意見を尊重すること」や「教員としてふさわしい行動」等、当たり前のこと多かったが、教員として「当たり前」に求められていることを改めて確認できる貴重な機会であったと感じている。CBTを通して、教員として求められることや、心構えについて学び直すことができた。教育実習までには、生徒の実態や、教科指導で求められること等について、より学びを深めておきたいと感じた。

実習に必要な
学びへの
動機付け

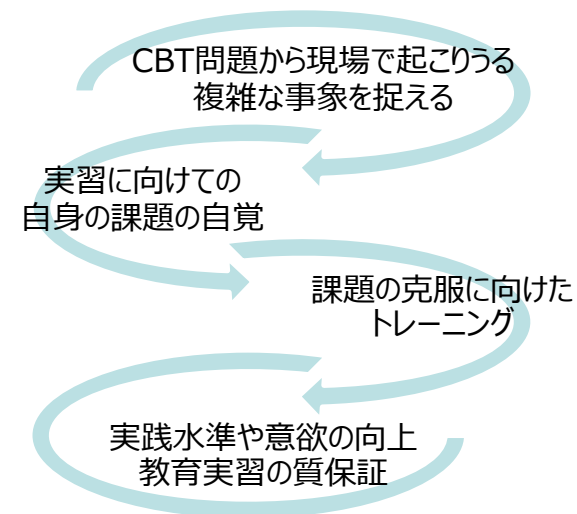
実習に必要な
実践方法を
イメージ

普遍的な
実践理論の
獲得に向けた
意識化

教育実践力向上CBTに取り組むことにより、教育実習への心構えができたと思いますか。



令和6年度「教育実践力向上CBTアンケート」



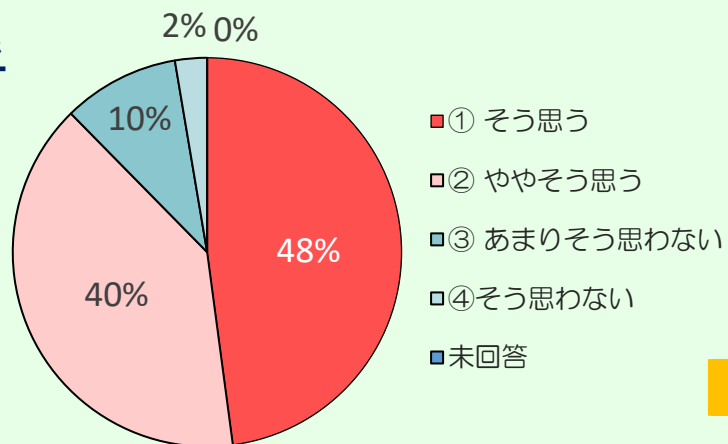
4.成果

教育実践力向上CBTで教師としての基礎的な資質能力や指導力の形成

教育実践力向上CBTを受検後の学生の意見

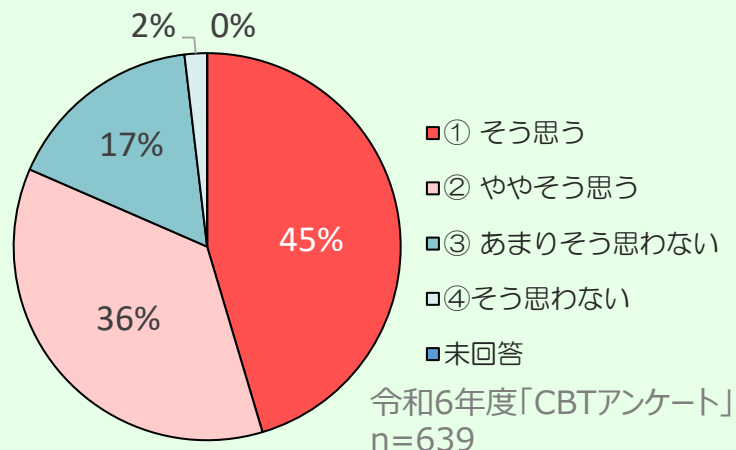
教育実習への心構え

教育実践力向上CBTに取り組むことにより、教育実習への心構えができたと思いますか。



知識や考え方の獲得

教育実践力向上CBTに取り組むことにより、学校現場での指導をイメージしたり、指導上求められる基礎的な知識や考え方を確かなものにしたりすることができたと思いますか。



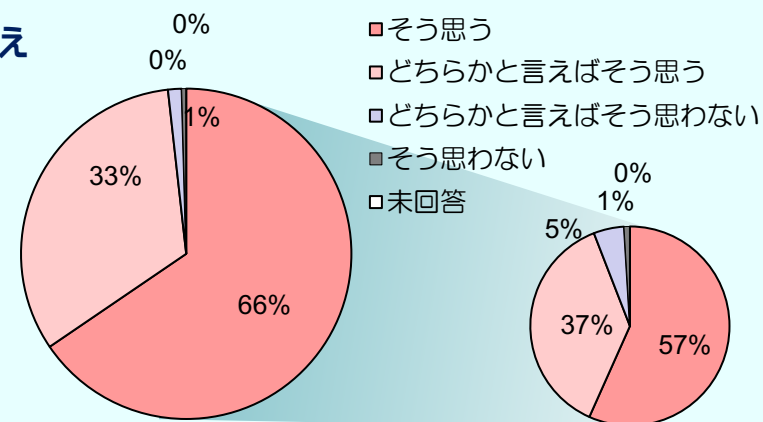
令和6年度「CBTアンケート」
n=639

学校現場を活用した授業科目「学校臨床研究」で教師としての実践力を形成

授業科目「学校臨床研究」後の学生の意見

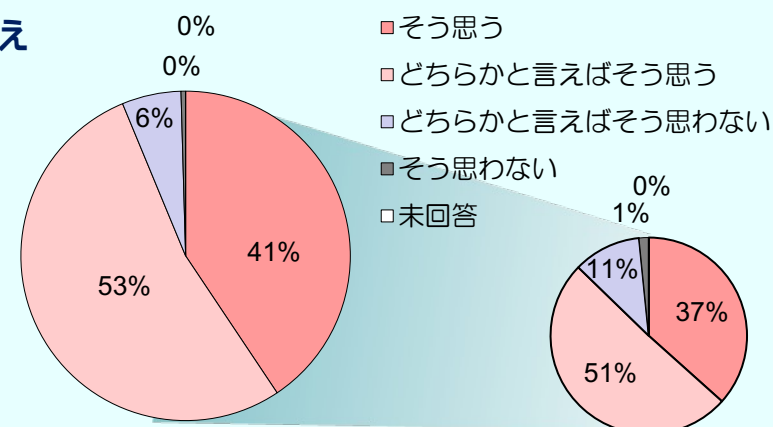
課題設定力向上の手応え

教育実習等で自覚した自分の課題を明確にすることができたと思いますか。



課題解決力向上の手応え

課題解決のために必要な情報を収集及び整理・分析することができたと思いますか。



令和2年度「学校臨床研究に関するアンケート」 n=720 回答率95.7% 平成30年度 n=628 回答率91.3%

5.現状と今後の展開

他大学

学校現場に求められる
実践的な知識や手立ての習得

モニター校

国立9大学 公立3大学
私立68大学 計80大学

- ・基礎編のデータ提供
- ・活用例
「教育実習前に実施」
「教育実習の事後指導にも活用」
- ・アンケート実施

北海道教育大学

学校現場における知識・手立ての習得、イメージの拡大

〈1年次〉〈2年次〉

〈3年次〉

〈4年次〉

入学

・問題集配付

・学校教育の実践と省察Ⅰ

・学校教育の実践と省察Ⅱ

・CBT検定説明会

・CBT検定

主免教育実習

・学校教育の実践と省察Ⅲ

eラーニング

・発展編問題集配付

採用検査

・学校教育の実践と省察(発展)

卒業
就職

各教育委員会

初任教員の資質向上

- 北海道教育委員会
 - ・発展編問題集配付
 - ・活用～初任者(冊子)
- 札幌市教育委員会
 - ・発展編問題集配付
 - ・活用～初任者(項目毎データ配信)
 - ・アンケート結果
91%強が肯定的回答

【他大学の反応】

- 教員の資質・能力に必要な内容が網羅され、実践面に役立つ。
- 実際の教育現場でないと経験することがない場面を想定し、教員にどのような力が必要なのかを考えることができた。
- この受検が学びを振り返り、学びの不十分さを知り、補いを促せる点において有効と思われました。
- 学校教育における基本的な知識や学習指導要領について改めて学ぶ機会になりました。
- 教職教養の知識が足りなかったので学んでいきたい。 など

リカレント教育

社会人を経験して教職を目指す人への支援プログラム
ステップ1～3までのプログラムを170時間で学ぶ。

＜ステップ2の実践的教育講座における教育実践力向上講座＞

- ・CBT教育実践力向上問題集の活用(40時間)
- ・個別の解説(10時間)

- 教員研修用教育実践力
向上CBTの開発・提供
(令和6年3月)

文部科学省委託
「教員研修高度化推進 教員研究
の高度化に資するモデル開発事業」

**教育実践力向上
CBT**

**個別最適・協働的な
学びの実現**

実践的指導力の育成